

会議録(要旨)

会 議 名 等	令和 5 年度第 1 回自立支援協議会 全体会議		文 責	障がい福祉室
日 程	令和 5 年 7 月 13 日 午前 10 時から正午まで	場 所	千里山コミュニティセンター 多目的ホール	
出 席 者	波那本委員、播本委員、原田委員、大西委員、細川委員、伊藤委員、藤本委員、辻委員、西岡委員、栗田委員、内藤委員、矢田委員、相馬委員、河野委員、片田委員、吉池委員、西村委員、土井委員、木谷委員、小林委員、平井委員			
1. 机上配布資料の確認 2. 開会挨拶 3. 委員紹介 「(資料 2)令和 5 年度吹田市地域自立支援協議会全体会議 委員名簿」 参照 ・今年度から新たに、障がい福祉サービス事業者として府内のサービス提供事業所・司法関係者として大阪弁護士会・学識経験者として大阪人間科学大学の3機関から参画。 ・委員定数25名のうち、会場18名、オンライン3名、計21名の委員が出席。半数以上の委員が出席のため、吹田市地域自立支援協議会設置要領第6条第3項の規定により、本会は成立。 4. 傍聴者 会場傍聴者:5名、オンライン傍聴者1名 5.会長・副会長の選出 それぞれ選出され、意義なし 6. 吹田市地域自立支援協議会の概要及びスケジュール 「(資料 3-1) 吹田市地域自立支援協議会の概要」 「(資料 3-2) 令和 5 年度吹田市地域自立支援協議会 年間予定表」 参照 7. 地域会議の取組状況 「(資料 4) 吹田市地域自立支援協議会地域会議について」 参照 各センターの地域会議の状況について報告。 ・質問・意見 委員：PTAの保護者からの相談の中で、学校を卒業した子どもが日中活動から帰って夜になるまでの過ごし方に悩むという内容をよく聞く。母子支援として受けられないことがないか？ その時間の過ごし方について何かサービスがないのか、学校として紹介できたらいいと考えている。 事務局：移動支援や居宅支援がある。 委員：サービス利用したいと相談を受けるが、数に限りがある現状。 初めて発達相談や発達検査を受け、受容がなかなかできないまま一生懸命考え相談に至った母からの依頼を断らなければならない。 児童発達支援に行くだけが選択肢ではない中で、最初の相談から何か別の事業所につなげる際に、単純にサービスにつなぐだけではなく、子育ての応援、その子どもに一番必要なことを一緒に考えてほしい。 ファーストコンタクトを大切にしてほしい。 豊津・江坂・南吹田障がい者相談支援センターで取組んでいく予定の冊子にはそういったことを盛り込んで欲しいし、自分たちも協力できると思う。 委員：吹田市では計画相談支援の推進を行っているが、なかなか実数としては難しい現状である。ひと				

りの相談員が持てるケースは大体いくつなのか？

委員：恐らく70ケースくらい。

他の業務との兼ね合いもあるので何とも言えない

20数件の人もいれば、100件近くの人もある。

障害種別の得意分野や児童によっても変わる。

市役所で調査をして資料とするのもいいかもしれない。

委員

片山岸部障がい者相談支援センターの地域会議・社会資源マップ作成について

社協のHPにもマップはあるが高齢福祉と児童福祉がメインなので、障がいも加われば社会資源の充実が図れる。協働して行えたらいいと思う。

8. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム専門部会の取組状況

「(資料5) 吹田市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム専門部会について」参照

昨年度の活動、今年度の予定について報告。

入院中から行える支援や課題を抽出等に取り組んでいる。

○質問・意見

委員：榎坂病院における院内茶話会の「よつば会」は3年前から動いていない。

R4年の秋個別事例で小規模の開催をしたことあったが、にも包括ではどのようなかたちで再開する予定なのか？

障がい福祉室：従来の「よつば会」の形でするのか別の新しい形で始めていくのか、榎坂病院と検討を重ねていきたい。

委員：R4年度の地域移行の支給決定は何件あったのか。

障がい福祉室：正確な数字はすぐにでないが年間2.3件程度。

委員：茨木市では何件か？

委員：恐らく吹田市と同じ程度。年間2.3件である。

9. 第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画策定に向けたスケジュール

「(資料6) 第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画策定に向けたスケジュール」参照

計画作成に向け、障がい者2000人、児童700人へアンケート、当事者団体・事業所への聞き取りを行っている。

○質問・意見

委員：自立支援協議会から専門分科会への報告は、計画素案がでるのが11月、自立支援協議会本会議が3月なので間に合わないが委員は計画の内容を確認できるのか。

事務局：素案は11月の時点で委員に公開し、意見をもらう予定。事務局から各会議体に共有する形で意見聴取させていただく形になる。

委員：アンケートを取って総意をとる場合、子どもと障がい者の意見は大きく違う。

子どもの意見をしっかり聞かなければならないと考える。委員として、その部分は確認していきたい。

10. 障がい者福祉年金

「(資料7) 障がい者福祉年金について」参照

現状、福祉年金の制度を行っている市町村は大阪府内で吹田市と摂津市のみ。

○質問・意見

委員：吹田市と摂津市のみと聞いて驚いた。

GHで障害年金のみで生活をしている障がい者にはありがたい、必要な制度なので、やめないでほしい。

委員：吹田市には日中支援型共同生活援助はない？

障がい福祉室：現在時点で指定を受けている事業者はない。

委員：日中支援型共同生活援助は申請すれば通るものか。

介護保険との切り替えで障がいのサービスを続けたいという希望も非常にわかるが、障がいのサービスじゃ支えきれないことも実感する。他の支援も充実したらと思う。

障がい福祉室：体制がそろっている状況で申請を行えば可能。

11. その他

委員：地域会議について、NTと山田地域が合同で行っている理由は？

今後離れていく予定もあるのか。

障がい福祉室：共通課題が多いため合同開催となっている。

任期もあるため分かれて行うことも視野には入れている。

・センター挨拶

千里山・佐井寺障がい者相談支援センター

その人の困りごとや障壁、それに対して暮らしを一緒に考えるセンターを心がけている。

顔の見えるネットワークづくりを目指している

豊津・江坂・南吹田障がい者相談支援センター

地域会議を1年間同じメンバーで行ってきたことで顔の見えるネットワークを作ることができた。

R5年度から新しいメンバーも増えさらにネットワークを広げ、協力しながら成果物を作っていきたい。

内本町障がい者相談支援センター

地域での生活で困っていること、様々な悩みを挙げていく中で共通して障がい理解の

これからどう周知や啓発を行っていくかを考えていく必要があるとアドバイスを頂いた。これから進めていく中でも皆様からアドバイスをもらえたらと思う。

亥の子谷障がい者相談支援センター

地域会議の共同開催について補足説明。NTエリアに計画相談は1件、亥の子谷にも数件しかない。このことから共同開催の運びになった。最初は任期3年であったが、3年間の開催の中で続けていく意義もあるように感じ引き続き共同開催を行っている。

エリアの広さから分かれて行うのも必要だとは思うが、支援者が多くない中ですぐには行えないと考えている。

千里NT障がい者相談支援センター

SOSを出しにくい、支援につながりにくい方がいらっしゃる中で、ネットワークを広げていき支援に繋がりのよい地域にしていきたい。地域の支援に尽力したい。

・その他意見

委員：コロナに非常に影響された3年半だった。

前会長であったが、今期からは委員として尽力したい。新会長は会議を牽引してくださると思う。

委員：吹田市には吹田市特有のストレングスや有力な支援者がたくさんいる。
届きにくい声をどう拾うか、届きやすくするかをこの会議から考えていきたい。
次回は各自付箋を用意してもらいメモを残してもらえれば、質問や意見を届けやすい。

【配布資料】

（資料 1）吹田市地域自立支援協議会設置要領

（資料 2）令和 5 年度吹田市地域自立支援協議会全体会議 委員名簿

（資料 3-1）吹田市地域自立支援協議会の概要

（資料 3-2）令和 5 年度吹田市地域自立支援協議会 年間予定表

（資料 4）吹田市地域自立支援協議会地域会議取組状況

（資料 5）吹田市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム専門部会取組状況

（資料 6）第 7 期障がい福祉計画及び第 3 期障がい児福祉計画策定に向けたスケジュールについて

（資料 7）障がい者福祉年金等について